

TEIKA

Teikyo University of Science

ニューズレター 2013 第26号



対談

「キャリア支援の充実に向けて」

—永沼 学長補佐・教務部長 × 大辻 学生部長—

メッセージボイス

保護者の声 / 卒業生の近況報告

キャリア支援センターのお知らせ

/ 卒業式・入学式 / 新任・退任教員の紹介

科大祭・桜科祭のお知らせ



いのちをまなぶキャンパス



帝京科学大学

特集

◆ 学生のサークル活動と地域の交流レポート

◆ 教員の活動報告

キャリア支援の充実に向けて

—— 永沼 学長補佐・教務部長 × 大辻 学生部長 ——

司会：永沼先生、大辻先生、本日はよろしくお願いたします。
まず帝京科学大学の現状について伺います。

▼帝京科学大学の歩みと現状

永沼：本学は今年で開設23年目になります。当初は1学部4学科
で定員480人の単科大学としてのスタートしました。

司会：どんな学科構成でしたか。

永沼：理工学部のもと、電子・情報科学科、物質工学科、経営工
学科、バイオサイエンス学科でした。

その後大きな改組を行い、現在では、生命環境学部、医療
科学部、こども学部3学部11学科プラス総合教育セン
ターという体制になっています。

大辻：キャンパスも千住、上野原、山梨市の3つになりました。

永沼：現在の学生数は4,050人ぐらいで、看護学科が完成年度
を迎えると4,300人ほどの学生数になります。23年間で
10倍近くに大きくなったということですね。



大辻 一也（おおつじ かずや）学生部長
アニマルサイエンス学科長・教授・農学博士

司会：では本学の学生の特徴についてお願いします。

▼学生の特徴とキャリア教育

大辻：生命環境学部には生物や自然が好きな学生が在籍していま
すし、こども学部には他大学と比べて男子学生が多いと思
います。医療科学部の学生は、国家試験の合格を目指して
いるようです。全般的に素直でまじめな学生が多いですね。

永沼：確かにそうですね。それから、サークル活動が盛んですね。
大辻：千住と上野原で106を数えるサークルが認定され、その多
くがそれぞれの地域と交流をもち、連携に一役買っていま
す。地域のみなさんから褒めの言葉をいただいています。

司会：キャリア(進路)に関してはどうですか。

大辻：なかなか方針が決まらないという点で千住と上野原の学生
は共通していますね。ただ、就職活動の必要性に気づかせて
あげないと、なかなか前に進めないという部分はありますね。

永沼：その点で、キャリアカウンセラーが非常に重要な位置を占
めていると感じています。こういうご時世ですと、2、3回で
内定を取れる学生なんてほとんどいないわけですよ。何回
か落ちこちて、心が折れそうな学生が結構いる。そのときに
キャリアカウンセラーが果たす役割は大きく、その充実を
図ることをとおしてキャリア支援を図っています。

「キャリア支援」というと「就職支援」をイメージされるかも
しれませんが、ただ、就職のためだけに教育をし、ノウハウ
を教え、支援を行うのではなく、社会のなかでそれぞれの
役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための
力(=自己実現)を学び、経験してほしいと考えています。

大辻：キャリア支援センターでは、自分の特性を知り、企業との
ミスマッチを防ぐために「キャリアデザイン」という授業や
職場体験(インターンシップ)、カウンセラーによる全員面
談などを行っています。その成果が出つつあります。

▼学生支援

司会：学生数も大幅に増加した現在、キャリアを含め、学生支援
も重要になってきますよね。

大辻：確かにさまざまなタイプの学生が入学しています。いろい
ろな不安を抱えた学生も多いようです。そのようななか、履修
方法、資格取得に必要な単位、留学などの教務関係や大
学生活への不安やつらさなどの心的問題に対応するため
に、助言教員制度^{*}やカウンセリング、総合教育センターの

「なんでも相談制度」など学生のメンタルヘルスを重視した相談制度がありますので、活用してほしいと思います。

永沼：大辻先生は助言教員制度で学生に寄り添った指導をなされていますよね。

大辻：僕自身の事例で申し訳ありませんが、対象学生全員の面談を始めています。なかなか自立できない学生を見てきましたが、突き放せば自立するかという、そうじゃないのですよね。永沼先生がおっしゃった「寄り添うように」という気持ちと態度で接していかないと、今の学生はついてきてくれないという結論に至ったわけです。この考え方は、キャリア教育だけの話ではなくて、大学教育全体に言えるような気がしています。

そのような思いで全員面談をしています。時間はかかりますけれども、それなりに教員と学生との距離も縮まり、結構親しく話せるようになったと思います。

いずれにせよ、もう少し助言教員制度を有効に使うことで、教師と学生のコミュニケーションを良くすることで大学全体が良くなっていくのではないかと、あるいは支援が必要なきに誰か周りの教員が対応できるかなと思っています。

永沼：大学の使命として、社会との一定の関係が築ける経験と能力、言い換えれば、社会的基礎力というものをおききと身につけさせたいですね。例えば、卒業研究で、初めて自分が考えて企画した研究を行うことができるわけですね。それでおもしろくなり、大学院へ進学して研究を続ける学生もいます。自分の可能性を見つけるという点では、大学院進学も勧めたいと思います。ただ、いろいろなタイプの学生がいますので、それぞれの特徴・個性にマッチした対応で、社会人としてふさわしい人間を育てることが求められていると感じています。

大辻：コミュニケーション能力がますます問われていますね。大学のなかで学生同士、教職員と学生との交流と結びつきが



永沼 充 (ながぬま みつる) 学長補佐兼教務部長
図書館長・教授・工学博士

深まることによって、コミュニケーション能力の向上を図っていくような仕組みづくりも今後の課題になろうかと考えています。

永沼：本学のキャッチフレーズでもある「いのちをまなぶキャンパス」の意義を学生のみなさんと共有しながら、彼らの将来と可能性を見据えたキャリア支援を全教職員で行っていかうと思っています。

司会：今日はありがとうございました。



※ 助言教員制度

専任の助教以上の教員が各人の学習、履修、将来の希望等問題の大小、種類を問わず学生の相談に応じます。日常的、個人的相談相手として教員と接する場を作ることによって、個人個人の学問上の成長を助け、共に人間形成を育むことを目的とします。

特集

学生のサークル活動と地域の交流レポート

第4弾

本学には現在、100を超える課外活動団体があり、それぞれが目標を持ち、地域や学外との連携を図りながら独自の活動を展開しています。今回は、その第4弾となります。

環境問題研究会

上野原キャンパス

(顧問：落合 鍾一)

こんにちは！ 環境問題研究会です。私たちのサークルは平成22年4月に発足し、上野原市内の環境汚染の現状を地域の方や本学の教職員、学生に知ってもらうことを目指しています。本年度の活動は11名で行っており、主に月に1回上野原市内の数カ所で放射能を測定し、また上野原キャンパス内と交通量の多い中央自動車道付近で二酸化窒素濃度も測定しています。測定結果は科大祭などで展示や講演する他に、放射能については上野原市役所ホームページにも発表させて頂いています。自ら測定して得たデータを基に環境の

健全さについてみんなで議論することにより、風評に惑わされたりしない判断力が身につけてきていることを実感しています。

自然の多い上野原市で過ごすのは大学生活だけかもしれません。だからこそ他の地域にはないこの景観を守っていくためにも、環境汚染の現状を正確に把握したいという思いで日々の活動に勤しんでいます。もちろんティータイムを楽しむ時間もあります。興味ある方はぜひ一緒に活動しましょう!!!

代表：池 値悠
(自然環境学科3年)



主に月に1回上野原市内の数カ所で放射能を測定しています。



はこねサークル

上野原キャンパス

(顧問：花園 誠)

私たちははこねサークルは、神奈川県にある児童養護施設に月に1回ボランティアに行っています。

このサークルの1番の魅力…。それは、子ども達のキラキラした笑顔が見られること!! 帰るときには子ども達が施設の外までお見送りをしてくれます。そこで「また来てね!」と手を振りながら大きな声で言われるだけで、どれだけ疲れていても「また来るよー!」と笑顔で叫んでしまうのです。子ども達の笑顔には、来てよかったな、次も絶対来よう!と思わせてくれる不思議な力があります。

また、施設に着いた時に「○○さんだ!」というように声をかけられると、名前を覚えていてくれたんだ!と、とても嬉しくなりやる気が沸いてきます。小さいことですが、この積み重ねが私たちの活動の力の源になります。

活動内容は、子ども達と全力で遊ぶ! その一言に尽きます。学生が全力で遊んでいると子ども達もそれに応えてくれます。他にも、学祭に招待したり、施設でのクリスマス会に参加したりしています。

子ども達に、「人と関わることの楽しさ」を感じてもらうことを目標に今後子ども



神奈川県にある児童養護施設に月に1回ボランティアに行っています。

も達と真摯に向き合い、共に成長していきたいと思えます。

副代表：中田 明里
(アニマルサイエンス学科2年)

ガンDASH村

(顧問：和田 龍一)

上野原キャンパス

私たちガンDASH村は発足3年目の新しいサークルです。現在15人で活動していて、活動場所は上野原キャンパスの体育館の裏にある畑です。主な活動内容としては畑の雑草抜きや水やり、最近では小屋やテーブルの作成をしています。たまに休日に集まってバーベキューもしています。このサークルをつくりたいと思った理由は、上野原キャンパスに通っている学生ならでのこと



最近では小屋やテーブルの作成をしています。

をしたいと思ったからです。もちろん畑などの農作業の知識もないし、経験もありませんでした。大学から借りている土地も最初は地面が見えないほど雑草が生えていて、とても畑なんてできない感じでした。当分はメンバーのみみんなで生えている雑草を抜く毎日でした。最近では畑で作物を作ることもできるようになり、実家が農家というメンバーのアドバイスを聞きながら野菜を作っています。私たちの畑の周りで畑をやっていらっしゃる方達も声をかけてくださるようになり、和気あいあいと活動しています。将来の目標は収穫した野菜でバーベキューをし、収穫量を増やして、上野原市内で販売し、多くの方に味わってもらえたらと思っています。

代表：清水 臨太郎
(自然環境学科3年)



休日に集まってバーベキューもしたりしています。



陸上サークル

(顧問：大石 徹)

千住キャンパス

こんにちは!! 私たち陸上サークルは毎週水曜日に活動しています。

去年までの陸上サークルの人数は10人以下と思うように活動できませんでした。しかし、陸上が好きで熱意のある一年生が入学したおかげで、私達も刺激されより活動に力を入れるようになりました。

私たちの活動方針は「先輩後輩の壁を作らず一本一本集中」。休憩の時などは上下関係を作らず和気あいあいとしています。練習はしっかりと、メリハリをもって活動しています。

また、長期の休みを利用して合宿を行います。他校との合同なので競争相手が増え、より練習に力が入ります。練習の力を発揮するために記録会にも



出場します。記録を伸ばすために、練習は辛いですが、陸上サークルというチーム全員で乗り越え、1秒、1センチでも更新出来るように努力しています。

陸上が好き、走るのが好きな方がいましたら私たちと一緒に陸上サークルを盛り上げていきましょう。もしかしたら一生付き合える仲間に出会えるかもしれません。

前代表：増岡 永祥
(東京理学療法学科1年)



東京工芸大学との合同合宿。和やかに行われました。

教員の活動報告

Teacher's Activity Report



「緑の化学」の実現をめざして

自然環境学科長 教授 釘田 強志

先日、教室から「次は、緑の化学だ」という学生の話し声が聞こえてきました。私が担当している「グリーンケミストリー」の講義のことです。「グリーンケミストリー」ってご存じですか？ 1995年頃からアメリカで使われはじめた、化学のある体系を表現する言葉です。一般に「環境にやさしい化学合成」と言い換えられたりもします。確かに、「Green」や「緑」から、きれいな自然環境をイメージしますよね。人に有益な化学製品を今後も利用するために、環境への負担が少ない新しい方法で製造する、その実現の鍵を握るのが触媒です。「Greenな化学合成プロセス実現のための新規触媒開発」、これが私の研究テーマです。



統計モデリング

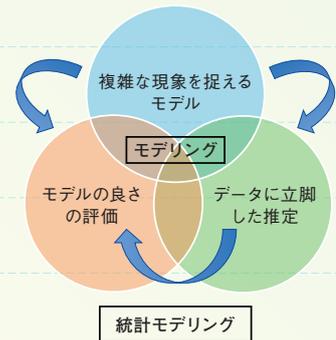
東京理学療法学科 講師 松葉 潤治

「統計モデリング」が私の研究テーマの一つです。

統計モデルとは、

- ・観察によって数値化（データ化）された現象を説明するために作られる。
- ・確率の分布が、基本となるツールであり、これによりデータのバラツキを表現する。
- ・データがモデルに対する当てはまりの良さを定量的に評価できる。

という特徴をもつ数理モデル（数式のモデル）です。統計モデルを作り、データを当てはめてみることによって、さまざまな現象を理解することができます。その方法論の理学療法分野への応用もちろん可能です。妥当なデータを収集できれば、さまざまな疾患、病期別の理学療法の効果も定量的に評価したいと考えています。



国際学会の楽しみ

生命科学科 教授 松岡 浩

世界中から関連分野の人たちが集まって来る国際学会では、参加するだけで最先端の研究情報が得られます。けれども、実際に参加して発表する場合、知らない場所で一日中英語ですから、国内学会と比べればその緊張度は格別です。筆者は6月末にフランスのルールで開かれたヨーロッパ動物細胞工学会に参加して、「組換え動物細胞を用いてある種の医薬品を生産する場合、培養温度を段階的に変えることにより画期的に生産量を上げることができること」について発表してきました。一部の研究者からは絶賛されましたが、別の研究者からはかなり手厳しい批判を受けました。国内学会ではなかなか聞けないストレートな意見が聞けることも国際学会の良いところです。



研究発表のポスターの前で

子どもの育ちにとってよい環境とは

こども学科 助教 鳥越 ゆい子

近年、学校を核にした新しいかたちの地域教育が台頭しつつあります。ここでは小学校区単位で活動する、ある地域の事例を紹介します。この地域では、生涯学習の場として学校の一部を地域住民に開放しています。ここでの大人たちの活動は音楽やスポーツ、パソコン、工作、演劇とさまざまです。また、この活動はあくまで地域住民の生涯学習であり、子どもたちに教えようとおこなっているものではありません。しかし、身近にさまざまな活動を楽しむ大人がいるということは、子どもたちの好奇心をかきたてるとともに、多様な地域の大人と子どもとのつながりづくりに一役かっています。

人は他者との関わりの中で自我を形づくります。そのように考えると、保護者や学校・習い事の先生としか関わらない子どもの自我形成と、それに加えて、いろいろな職種、そして多様な価値観の大人と関わる子どもの自我形成は、異なることが推測されます。

子どもの育ちにとってよい環境とはどんなものなのか。これを私の研究室では教育社会学的観点から調査を進めるとともに、将来多くが子どもと関わる職に就くだろう本学科の学生たちと共に考えていきたいと思っています。



中学生への援助から大学生への援助へ

総合教育センター 教授 樽木 靖夫

2010年4月より本学に勤務しています。それまでは、中学校教諭でした。中学校では非行・いじめ・不登校など学校生活に苦戦する生徒に対して、教師、保護者、スクールカウンセラーによるチームでの援助を行っていました。中学校教員時代には、学校行事は生徒の成長に寄与すると体験をベースにした研究を行い、最近、著書『学校行事の学校心理学』にまとめることができました。自分の仕事に役立つ研究を行いたいという信念があるため、現在は、中学生ではなく、大学生の自己形成について実践および研究を行っています。大学生の職業的意識と自己意識を統合して考える「なりたい自分」の課題を実践しながら、大学生の自己形成について、彼らのモチベーションや活動の意味づけを高めることの意味・効果を検討しています。



課題「なりたい自分」の実践風景

日本育ちの柔道整復術

東京柔道整復学科 准教授 市毛 雅之

同じ食材を使用しても中華料理、西洋料理、日本料理などさまざまな調理法があります。無論、料理と治療を一緒にする訳にはいきませんが、ケガをした人を治す方法にもいろいろな見立てと方法があります。

柔道整復術は、中国や西洋の流れを汲みながら日本で発展してきた処置法です。

柔道整復術は、解剖学や生理学の基礎医学をもとに、手術を用いしないで、患者さんの自然治癒力を活かす処置法です。この日本で発展してきた伝承医学に経験則、近代医学の正流を加え、根拠に基づいた科学的見地から解明することを研究テーマとしております。



手術を用いしないで、自然治癒力を活かす処置法



Toe-Heelペダル運動器の紹介

理学療法学科 教授 昇 寛

私が臨床現場の中で特に取り組んできたことは運動機器や測定機器の開発でした。今回その一つとして「Toe-Heelペダル運動器」を紹介します。

この運動機器は、下肢全体の筋力強化練習を目的として開発しました。この機器の特徴は、足部で踏み込む板の土踏まず部分がないということです。また、この機器には「膝関節の固有感覚の強化」という特筆すべき効果もあります。固有感覚というのは、膝の曲がり具合いや伸び具合を感知する感覚のことです。ヒトは歩く時に無意識に道路や階段の状況に合わせて膝や足の曲げ具合を決定して即座に対応していますが、この関節の固有感覚の低下によって転倒や躓きが起こりやすくなります。そのような危険を防ぐための運動装置ということになります。

Toe-Heelペダル運動器



希望の光源と輝く人材の育成

看護学科 准教授 岡村 千鶴

私は、平成24年4月の看護学科開設とともに赴任いたしました。小児看護学を担当する中で、学生が患児のニーズを把握し援助が可能になるには、教員のどのようなかわり方が効果的なのかを研究テーマとしています。また、学習者の特性により効果的な教育方法や訓練方法が異なるという点に注目し、学生に応じて教育方法・学習方法の最適化を図ることを目標としてきました。

看護学科は、開設2年目を迎え、2学年176名となりました。176名全員が、希望の光源と輝く一人一人に成長し巣立ちゆくことを願い、清新の心で次代を担う後継の人材を育ててまいります。



看護学科の学生が主に学ぶ2号館



配慮の必要な児童への支援

児童教育学科 准教授 石橋 裕子

「特別支援教育」をご存知ですか。「特殊教育」に変わり平成19年度から実施されている、配慮の必要な児童生徒に対する学習や生活を中心とした支援のことです。

「配慮の必要」な対象児は、生活や学習する上でさまざまな困難のある児童生徒です。漢字は読めるが書くことが困難、飲食するのは鮭フレークを混ぜたご飯と麦茶だけ、母親から毎日しかられたこと等が原因で女性をひどく嫌がる、等が例です。「鮭フレークご飯」しか食べられない児童へは、給食のおかずを少量ずつ見せて徐々ににおいや色に慣れさせ、その後、「おかずを一口食べられたら鮭ご飯を食べる」とルールを作って給食が食べられるようにする、等のアドバイスを、月に数回学校へ伺って行っています。また、通常学級における特別支援教育が円滑に行えるよう、年に数回研修会を開催しています。



対象児が授業を受ける様子

サイエンス(Sciences)

柔道整復学科長 教授 安藤 博文

平成23年に本学に赴任し、その年の春の叙勲で教育功労者表彰(瑞宝単光章)を受賞しました。45年間、教育研究に携ってこられたことを誇りに思います。

最近思うことは、学生の科学離れが目立ち、若手研究者の減少がNature誌に報じられ、海外からの留学生は以前の1/3に減っているという状況です。さらに、GDPは中国に抜かれ3位、学術論文数でも減少が指摘されています。原因は多岐にわたると思いますが、日本人が持ち続けてきた国造り、誇り、高揚感がなくなりつつあるのではないのでしょうか？ 資源の貧しい日本は科学技術立国でなければ衰退の一途をたどります。改めて、学術に携わる者として、サイエンスに力を注ぎ、環境作りに専念していきたいと考えています。



山梨ゆかりの樋口一葉 一病跡学について

作業療法学科 教授 鈴木 幹夫

歴史上の傑出した人物について、その生活歴や現病歴をたどり、彼らの後世にまで残る業績が生まれる秘密や、精神的特徴との関連を研究する分野を、病跡学といいます。ところで、天才の狂気と作品の関係には、「狂気のおかげで創造できた」、「狂気になる代わりに創造した」、などが考えられます。

両親が甲州出身の樋口一葉は、明治の最初の女流職業作家ですが、若くして当主となり、家族を養うために、小説を書く傍ら雑貨屋を営むなどして、実生活では多くの労苦を背負った人でした。ある男性への思慕がかなわぬ直後には、彼女の強靱な精神力はその悲しみのエネルギーを小説に結実させ、いわば「うつ病を発病する代わりに創造」しています。また、一葉は頑固な片頭痛もちであったことが知られていますが、片頭痛を示す人のなかには、稀に、大きさや距離の錯覚症状が出る場合があり、一葉が体験したであろうと思われるそのような記述が、『にごりえ』のおおりに託されて書かれています。

一葉は100年以上も昔の人で、今に伝わる評伝は多くはありませんが、その精神内界はとてつもなく豊穡であったことがうかがえます。このような病跡学の研究には、天才に対する単なる興味だけではなく、大いなる尊敬の念も必要なのです。



動物医療シミュレーション教材の開発

アニマルサイエンス学科 教授 櫻井 富士朗

動物医療従事者の教育現場では動物達の協力がなくては成り立ちません。しかし動物の扱いは実践でしか学ぶことが出来ず、協力する動物達は多大なストレスを受けることになります。そこで動物看護師と動物看護学に向き合ってきた本研究室では、獣医医療における動物達に替わるシミュレーション教材として、例えば、聴診器と装置を正確に装着することで心電図を測定できる人形を開発し、実際に教育で使用しています。この他、点滴業務、褥瘡^{しよくそう}等のモデルも開発・実践しています。このような取り組みは、動物看護師教育に役立つだけでなく、教材のテーマによっては、他分野の教育・学習モデルとして一般の方々にも提供が可能になります。これは生物学の教育・学習においても意味をもつ挑戦になると考えています。

※床ずれ



聴診・心電図モデル
心電図検査中の様子



聴診時の様子

本校は、帝京科学大学と寄り添うように立地しています。JR上野原駅から続く豊かな自然に囲まれた起伏の多い通学路を、毎日大学生と高校生が、それぞれの学校に通っています。

本校では、この数年来、保育や幼児教育を目指す生徒た



←生命科学科卒業生の
大場さんも期間採用教諭
として指導にあたって
います。



→神戸教授(こども学科)
による指導の様子。

ちのために、「福祉」の授業や「発達と保育」などの選択科目を開設しています。これらの授業で、絵本の読み聞かせやテピングや応急処置について、帝京科学大学の先生に出張講義をして頂くなど、多大なご協力を得ています。お陰様で生徒たちは、高校の教科書レベル以上の詳しい講義を受けることができ、進路実現への意欲も高められているようです。

さて、本校は普通科を母体とした総合学科高校として、地域の人材育成を視野に入れた教育を展開しています。そのためには、今以上に学びへの意欲を高め、21世紀型学力といわれる応用力や活用力を育てていく必要があります。日々の授業実践の工夫や改善に際し、近隣に支援が得られる大学があることは、何とも心強い限りです。

今後も帝京科学大学のご協力を得て、高校と大学の連携の絆をさらに深め、「学び」の質を一層高めていきたいと願っています。



活躍する卒業生

河西 弘樹さん(岩田学園いづみ幼稚園 教諭/甲府市)からの近況報告です。

平成25年3月にこども学科を卒業した河西弘樹です。現在は、山梨県甲府市の学校法人岩田学園いづみ幼稚園に勤務しております。

私が「保育者になりたい」と考え始めたのは高校生のときです。以前から子どものことが好きでしたが、あるとき、サッカーを通して子どもたちと関わる機会があり、そこで改めて子どもの純粋さや瞳を輝かせて楽しそうに活動する姿に心を惹かれたことがきっかけとなりました。

大学での授業は実践的なことが多く、教育者や保育者になりたいという気持ちが一層増しました。そして今、その夢が叶い毎日子どもたちと楽しく過ごしています。この1年目は、副担任として働き、さまざまなことを学べる貴重な期間となっています。「適期教育」や「プラス思考の言葉がけ」という岩田学園の教育を実践していくのは、簡単なことではないと感じることもあります。しかし、経験豊富な先輩方からさまざまなことを日々吸収するとともに、子ども

たちからも学び、ともに成長していきたいと思っています。

まだ仕事を始めて間もないですが、とてもやりがいがあると感じています。そして何より楽しいです!!! 子どもたちのステキな笑顔のために、教師として成長していきます。



保護者の声

笠貫 優子様(生命環境学部 生命科学科 3年 笠貫 友里香さんのお母様)からメッセージをいただきました。

娘が親元を離れ早いもので2年間が過ぎ、今年で大学3年生になりました。

通学が困難なため、大学近くにアパートを借り、初めての一人生活が始まりました。入学当時は娘を持つ親として心配ごとがたくさんあり、洗濯や、食事を作って食べていけるか、大学生活は大丈夫かと心配し定期的に電話をしていました。大学では、大学祭の実行委員会の一員として活動しています。昨年、大学祭開催通知が届き、初めて主人と二人で見に行き

ました。娘と会った時、入口では資料を配ったり、劇が始まることを周囲の人に知らせたりしていました。私は、その姿を見て不安がなくなりました。なぜなら、頑張っている娘は目を輝かせていたからです。この大学に入学して良かったと心の底から喜びました。私が思うに一人暮らしをさせることは心配でしたが、帝京科学大学は、娘にとって良い成長をもたらしてくれています。それを踏まえ、これからも娘の成長を応援していこうと思います。

第17回 障がいのある方のための乗馬会 「乗る・馬・体験」を終えて



平成25年6月30日、第17回障がいのある方のための乗馬会が開催され、障がい児23名を招待し、学生ボランティア約100名の協力のもと無事終了しました。ニューズレターへの掲載をお願いされたこの機会に過去17回を振り返ってみようと思います。

平成16年からはじまった乗馬会も当初は、学生諸君が座学や実習で学んだことを実践したいという気持ちから「障害者乗馬委員会」という名称で組織がスタートしました。馬もない、馬場もない、厩舎もない状況でした。RDAJapan、RDA宇都宮、RDAたまからインストラクターを派遣いただき、また、理学療法士や作業療法士の派遣もお願いしました。乗り手の障がいは、自閉症、脳性麻痺、広汎性発達障害、ダウン症、知的障害などさまざま。乗馬時間は15分から20分で各回20名から40名でした。回を重ねる毎に乗り手の数も増え、人数制限や乗馬時間を短縮するようになり、組織名称も受け入れやすさを考えて「障がいのある方のための乗馬会『乗る・馬・体験』」と変えました。

学生のための実践体験型から乗り手のためのイベント型、そしてテーマを決めて行うテーマ型へ進化しました。イベント型は、乗り手の子どもたちが乗馬前後に楽しめるイベントを用意した、学生らしいアイデアです。そしてテーマ型という毎回テーマを決めてそれにそった飾りを廊下に貼って子どもたちを歓迎するという新しい企画を最近はじめています。またこのような学生のボ



ランティア活動に単位認定制度を設け、「学士教育特別演習」として一年間活動した学生には、単位を取得できるように配慮しました。

現在、馬介在活動センターができ、環境が整い、そのセンターに所属する馬飼育職員がこの乗馬会をサポートしています。さらに本学の理学療法学科や作業療法学科から学生ボランティアが多数参加するようにもなりました。紅葉台木曽馬牧場からの借馬2頭以外はすべて自前で対応しています。本学ならではの乗馬会体制が整ったといえます。今後は、より楽しい乗馬会をめざすのか、より質の高い乗馬会をめざすのかを考える必要があります。学生諸君の新鮮な発想に期待したいです。

障がいのある方のための乗馬会「乗る・馬・体験」委員会
顧問教員：小川家資

キャリア
支援センター
だより

— 自ら人生を考え、切り開いていく力の育成 —



大学生活を通して自分を見つめ、将来の夢や実りのある人生を描くためのサポートを実施しています。

目の「就職内定」をめざすのではなく、人生設計という視点に立った就業力の向上を目指します。

キャリア支援センターに6名のキャリアカウンセラーを配置し、1年次からキャリア意識の向上を図っています。具体的な取り組みとして、1年次から2年次にかけて正課授業で

キャリア教育を行い、進路選択に必要なキャリア開発の基礎を学びます。

また、3年次からは全局面談を行い、学生一人ひとりに対して担当カウンセラーを決め、卒業まで継続して、細やかな指導とサポートを行っています。

学生がそれぞれの個性や才能を引き出して、就職活動に必要な知識にとどまらず、社会人になってからも必要な実践的なスキルが身につくよう支援してまいります。

▶▶▶ 卒業式・入学式



平成25年3月21日(木)、日本武道館にて平成24年度帝京大学グループ卒業式が厳かに挙行政され、学位を取得した学部生・大学院生が無事学舎を巣立ってゆきました。

学長挨拶では新社会人となる卒業生へ温かい励ましの言葉がかけられました。

卒業生みなさまの益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



平成25年4月4日(木)、日本武道館にて平成25年度帝京大学グループ入学式が晴れやかに挙行政されました。

本学は1,161名の新入生を迎えることができました。

学長挨拶では本学の建学の精神について紹介されました。

新入生のみなさまが十分に力を発揮されますようご期待申し上げます。



新任教員の紹介

平成25年度 着任 (8月末日現在)

退任教員

平成24年度 退任

(アニマルサイエンス学科)	(看護学科)				
多川 政弘 教授	中村 鈴子 教授	平田 礼子 講師			
並木 美砂子 教授	武政 奈保子 教授	糸井 和佳 講師			
川村 和美 特任助手	志田 久美子 准教授	小澤 美和 講師			
小泉 亜希子 特任助手	立石 和子 准教授	志村 智絵 助教			
	荒木 美千子 准教授	石ヶ森 一枝 助教			
(東京柔道整復学科)	村上 満子 准教授	野田 義和 助教			
田村 昌大 助教	大西 奈保子 准教授	藤田 藍津子 助教			

(理学療法学科)	
田中 和哉 助教	
(柔道整復学科)	
安川 五生 講師	
(児童教育学科)	
林 友子 准教授	
杉本 信 講師	

(アニマルサイエンス学科)	(こども学科)
福本 幸夫 教授	飯島 勤 教授
(看護学科)	乙部 はるひ 講師
戸田 すま子 教授	
(理学療法学科)	(児童教育学科)
浅利 和人 講師	井筒 紫乃 准教授
(柔道整復学科)	(総合教育センター)
小野澤 昭雄 教授	山本 涼一 教授

大学祭

今年も新しい・楽しいが盛り沢山!!
上野原キャンパス・千住キャンパスそれぞれの
大学祭をご紹介します。

★10/12(土)・13(日)開催!!

上野原「科大祭」



学生たちの内に秘めたパワーを響かせ例年以上に盛り上がる科大祭にしていきたいです。



みなさんこんにちは!! 科大祭実行委員会委員長の福原諒です。昨年の第22回科大祭は、多くの方々に来場いただき、大盛況のうちに終わることができました。本当にありがとうございました。

今年も第23回科大祭を開催するべく実行委員一同、準備に追われる毎日です。今年の科大祭のテーマは「響」です。科大祭の場を通して学生たちの内に秘めたパワーと地域の方々の活力・活気を社会に響かせようということからこのテーマにしました。例年以上に盛り上がる科大祭にしていきたいです。

今年の科大祭開催日時は、10月12日(土) 10時～17時、13日(日)10時～16時、後夜祭17時～19時30分です。今年もたくさんの方々に楽しんでもらえる企画を用意しております。学術企画は本学ならではの楽しい物理実験や標本展示、動物とのふれあい体験などをアニマルサイエンス学科、自然環境学科、こども学科が行います。そして、毎年恒例みんなで豪華景品を狙う!! 「ビンゴ大会」、帝科一の美声の持ち主は誰だ!! 「歌声コンテスト」、意外なお宝が眠っているかも!? 「フリーマーケット」等々見て楽しむ、やって楽しい企画が目白押しです。そして後夜祭ではいこいの広場を照らすキャンプファイヤーにバンド演奏、盛大な打ち上げ火花と最後まで目が離せません。

みなさんのご来場を心よりお待ちしております。

(科大祭実行委員会 委員長 福原 諒)



千住「桜科祭」

★11/2(土)・3(日)開催!!

みなさんこんにちは。桜科祭実行委員会委員長の宮森隆一郎です。

新しく開設された千住キャンパスも今年で4年目を迎え、桜科祭も今年で第3回を数えることとなりました。

今年度の桜科祭は11月2日(土)、3日(日)の2日間開催致します。今年度のテーマは「桜科爛漫」です。第1回、第2回で、芽吹き、咲いた桜科祭を、更に咲き誇らせようという願いが込められています。桜科祭実行委員会も、第1回、第2回を超える元気なメンバーが集まり、さらに充実した桜科祭へ向けて活動しています。桜科祭は実行委員会だけの祭典ではありません。本学の学生が一丸となって作り上げていく祭典です。今年度も多くの企画をご用意しています。アニマルサイエンス学科有志の「動物ふれあい」などの学術企画やミス・ミスターコンテスト、ビンゴ大会、サークル団体による模擬店等など、ご来場頂いたみなさまにもきつとご満足頂けるものと思っています。11月2日、3日、ぜひ桜科祭へお越しください。みなさまのご来場を桜科祭実行委員会一同心よりお待ちしております。

(桜科祭実行委員会 委員長 宮森 隆一郎)



今年度の桜科祭のテーマは「桜科爛漫」です。

【編集後記】

本学における教育・研究および学生生活について、できる限りわかりやすくお伝えすることを心掛けて編集いたしました。中でも今回は巻頭レポートとして、キャリア教育をはじめとした本学での学生支援について「教務部長と学生部長の対談」という形式で大きく取り上げました。

本学は約20年間で理工系単科大学から3キャンパス3学部11学科と総合教育センターをもつ総合大学へ大きく変化しました。そしてこれからもさらに飛躍していくものと信じております。「いのちをまなぶキャンパス」における学生・教員のさまざまな活動の様子を今後もお伝えしていきたいと思っております。
(ニューズレター部会 川田 裕樹)

発行人: 帝京科学大学 学長 沖永 莊八

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 TEL: 03-6910-1010 (代表)

帝京科学大学ホームページ URL: <http://www.ntu.ac.jp/> E-mail: tustnews@ntu.ac.jp

※ご意見、ご要望をお寄せください。

